

## 世界中の人々を救った日本人 ～北里柴三郎博士の功績～

毎年10月になると、ノーベル賞の話題が報道されます。「ノーベルウィーク」と呼ばれる1週間にその年のノーベル賞各賞の受賞者が発表されるためです。今年には日本からは受賞者は選ばれませんでした。1949年の湯川秀樹博士から2019年の吉野彰博士まで、これまでに30名を数えます。

第1回ノーベル生理学・医学賞の最終候補に残りながら、惜しくも受賞を逃した北里柴三郎という医学者を知っていますか。今、世界中が新型コロナウイルス感染症のために大変な思いをし、たくさんの方が克服するために必死になっています。その取組の一つがワクチンの開発です。ワクチンは、ウイルスや細菌による感染症の予防に大きな効果をもっています。皆さんの中にもインフルエンザなど、予防接種のお世話になっている人が多いと思いますが、この「予防接種」で使われるワクチンの開発は、北里博士の研究が元になっているのです。(2024年から発行される新千円札に北里博士の肖像が使用されます。)

北里博士は、わが国近代医学の先駆者として知られていますが、世界的にもその業績は高く評価されています。中でも、ベルリン大学に留学中の1889年、当時有効な治療法がなかった破傷風の原因となる破傷風菌の純粋培養に成功し、世界を驚かせました。さらに、破傷風菌の毒素を無力化する「抗体」を発見し、血清療法という治療法を生みだし、伝染病の予防に大きく貢献しました。その後、この方法をジフテリアに応用するなど、免疫医療の先駆者として高い評価を受けました。こうした研究は、今なお、予防接種、ワクチンとして現代医療に欠かせない大きな貢献を果たしています。



### 史上最悪の伝染病との闘い

ペストという、かつて世界中で恐れられていた病気がありました。感染すると身体中が黒く変色し、ほとんどの場合死に至る病気です。これまでに3回世界的な大流行があり、合わせて1億5千万人以上が亡くなったとされる、史上最悪の伝染病でした。

明治27年、香港でペストが流行します。このままでは日本も危ないと感じた北里博士は、自身の感染リスクを承知で香港に向かいます。当時香港では医学のためであっても遺体を傷つけることは許されず、周囲に知られないよう閉め切って、蒸し暑く、腐った遺体の放つひどいにおいの中という劣悪な環境の部屋で研究を続けたそうです。

そして、ついにペストの原因となるペスト菌を発見、消毒方法や治療方法を明らかにするのです。人類がペストと闘う術を手にした瞬間でした。その後世界中で研究が進み、現在、ペストは治せる病気になりました。

### 北里博士の志を受け継ぐ人々

日本人のノーベル生理学・医学賞は5人います。1987年に受賞した利根川進博士は北里博士が発見した「抗体」の仕組みを解明しました。また、2015年に受賞した大村智博士の開発した薬によって、2億人の人々が失明から救われたと言われます。大村博士は、北里博士が設立した北里大学の特任名誉教授です。ノーベル賞授賞式に向かう際、大村博士は「僕は北里先生の思いを背負ってやってきました。」と語っています。

北里柴三郎という勇気ある一人の日本人の高い志は現代に受け継がれ、今もなお、世界の人々を救い続けています。



